

「経営情報イノベーション研究」巻頭言

経営情報イノベーション研究科長

金 川 幸 司

このたび、『経営情報イノベーション』の第4号を発刊することができました。

当経営情報イノベーション研究科も5年目を迎え、博士課程の修了生も既に複数名を送り出すことができました。この『経営情報イノベーション』は、大学院生にも投稿を認めており、その論考を世に出す機会を提供しています。

今年、戦後70年の節目の年であり、また、日本を取り巻く内外の社会・経済・政治的状况も大きく変化しています。当研究科は、経営、公共政策、情報分野から成り立っていますが、今日の社会の諸課題の解決に当たっては、経済学、経営学、政治学、行政学、情報学など、様々な学問が融合していかなければならないものばかりといっても過言ではありません。

また、過去の歴史から何を学び今後何をなさねばならないかも社会科学に問われている大きな問題でしょう。学問がそれぞれのたこつぽに入り込み、大局観を失えば学問に対する世の中の信頼は失われ、意味のない難しいことをしているだけとの烙印を押されかねません。このため、課題に対してそれぞれの学問が英知を結集し、知見を出し合うことで、地域社会、あるいは、国際社会が抱える問題に対して提言をしていく必要があります。

その意味でも、各学問領域の枠だけにとらわれない融合的研究がさらに求められます。本紀要もそういった社会の要求に応えるべく、さらに多くの研究成果の発表を期待したいと思います。